近森病院　理学療法科

科長　田中健太郎　リハ部科長　前田 秀博

はじめに

2022 年は,理学療法士 59 名の体制で運営を開始し,4 月には 3 名の新入職員を迎えた.経過中に 5 名の中途退職,6 名の育休復帰と 9 名の育休入り等があり，年末の現場のスタッフ数は 55 名（前年同月 60 名）となった.

2 月には新型コロナウィルス感染症の大規模院内クラスターを経験した.その後も県内の感染者数の増減に比例して発生する陽性患者およびスタッフの対応に苦慮しつつ,組織運営を図った 1 年であった.

業務実績

2022 年は院内クラスターによる影響を強く受けた.1 年間の新規患者数は入院 5422 件（前年 5702 件），月平均 451 件（前年 475 件）であり，前年より減少した(図 1）.外来の新規患者数は 156 件（前年 241 件），月平均 13 件（前年 20 件）であった.特に入院患者においては,高知県内の新型コロナウィルス感染症第 6～8 波に反比例する形で新規患者数は変動した.

月別にみた入院・外来の延べ実施件数を図２に示す．入院は月平均 7262 件（前年 9611 件），外来 302 件（前年 278 件）であった．月別にみた疾患別リハ実施単位数は,平均 14611 単位（前年 18521 単位）となった（図 3）．大規模クラスター時には一部の病棟業務および外来業務を完全停止することとなり,患者職員双方に多大な影響を及ぼした.その後は,この経験を基に院内フェーズ毎にリハ室の使用制限や個人防護具の着用ルールを定め,実践したことで,陽性患者が発生しても,業務を完全に停止することなく運用でき,患者サービスを提供し続けることができた.

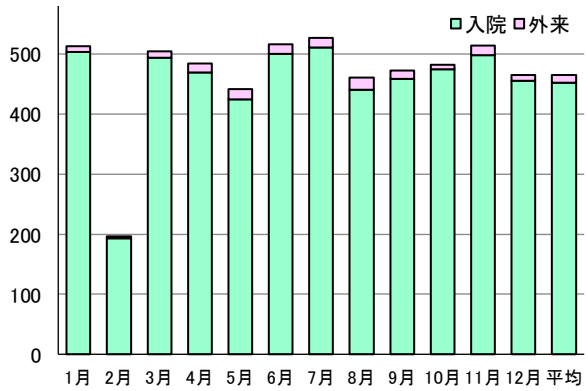

図1　月別新規患者数

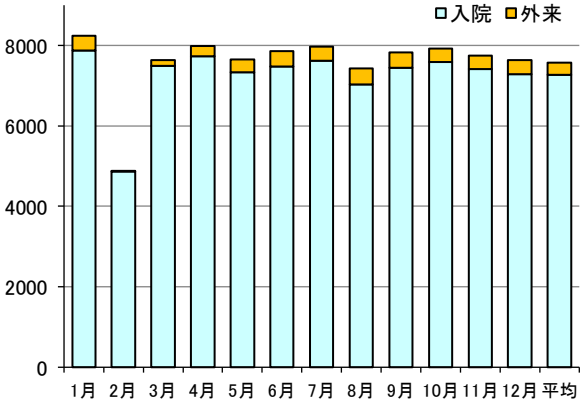

図2　月別延べ実施件数

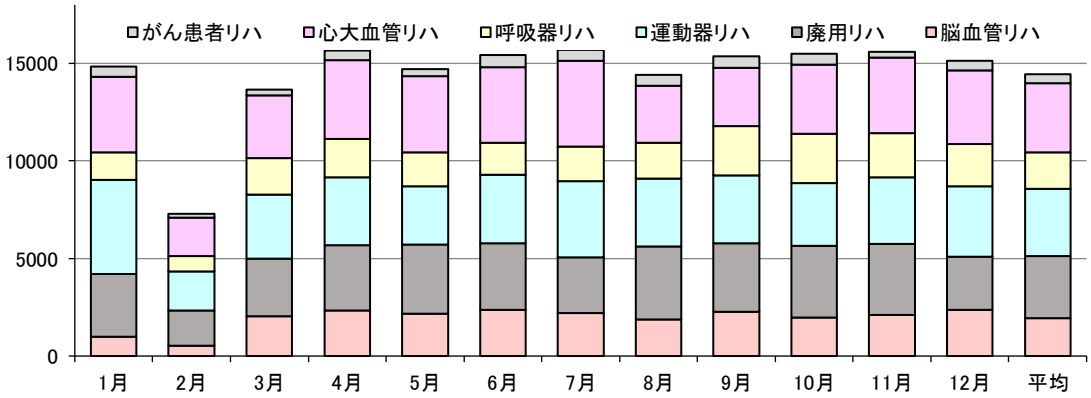

図3　月別疾患別実施単位数

おわりに

リハビリテーション医療は対象者との距離や接触時間などから,医療関連感染のハイリスク領域とされる.

新型コロナウィルス感染症に限らず,医療従事者として感染対策は今後も必須のものと理解し,コロナ禍,特にこの1年で得られた知識と経験をもとに,「すべてを止めることなく何が出来るか？」を常に考え, 高知の地域医療を守る最後の砦として,理学療法の質と量を発展させていきたいと考えている.

学術発表・講演会等

学術発表

演題名	演者	学会名	開催日（県）
当院における新型コロナウィルス感染症患者に対する理学療法の経験と課題	田中健太郎	第35回高知県理学療法士学会	3月20日（WEB）
高齢心不全患者の退院時ADLと介護サービスの利用状況について	藤山　祐司	第5回近森会グループ学術集会2022	8月6日（高知）
理学療法対象者における新型コロナウィルス感染症院内クラスターの影響調査	田中健太郎	第5回近森会グループ学術集会2022	8月6日（高知）
COVID19院内クラスターによる影響調査　-実践報告を踏まえて-	田中健太郎	第50回四国理学療法士学会	11月27日（徳島ハイブリッド）

講演

講演名	講師	研修会名	開催日（県）
心不全患者に対する呼吸筋トレーニングについて	前田　秀博	心臓血管疾患リハビリテーションを考える会	7月8日（高知）
「呼吸リハビリテーションにおける基礎と解剖」	前田　秀博	高知県理学療法士協会　2022年度理学療法士講習会（基本編理論）	9月10日 WEB
「呼吸リハビリテーションにおける評価」	田中健太郎		